



今回は初めての方も多く 15名の参加がありました。2人のコラボよりやり易いということで、前回に引き続き3人と4人のコラボレーションとなりました。

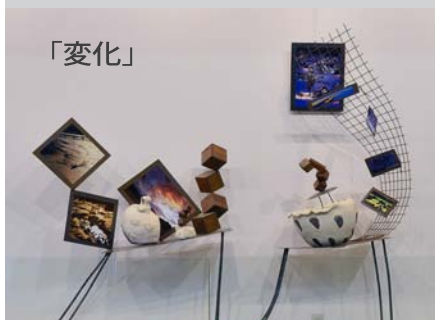
大きな作品あり、連作での表現あり、多彩で見応えのある展覧会になりました。「宙」という作品は鮮やかな色の組み合わせと書の文字で形造られた錫の上品な輝きとが一体となって強い印象を与えていますが、近寄って見てみると植物の花や葉が立体的に浮き上がって見え瑞々しい空気感が漂っているように感じました。そして「う・つ・ろ・い」は特殊フィルムを作品の前に入れることで不思議な重なる3次元世界を表現しています。視点が動くと画面も動くので微妙な色彩が重なって森の空間が揺れているようです。また「書」の文字が重なっていて何て書いてあるのか直ぐに分からなかったのですが、その文章から空想するイメージもまた頭の中でダブっているように感じて不思議な気持ちです。そして輪ゴムを使ったものや紙を切り抜いたりした作品もまたそれぞれに異空間を表現していました。それから私たちの作品「変化」。

アンバランスをテーマとして創っていくことになり、まず鉄と対比するように白い柔らかい感じの陶が出来上がって、それを見て全体の構成が決まり、最後に私の想像を超えるイメージや色彩の写真が加わって新鮮な驚きを感じました。陶、鉄、写真のそれぞれの素材、表現を生かそうと銘々が考えたコラボです。

そして顔をテーマとしていろんな顔がある「人も色々」。簡潔に描かれた顔、内面を描いた油彩画、抽象的な顔、薄っすらと浮き上がる顔、題名通りに人も色々ですがそれが一体となって強い力を放っていました。

コラボの人数が多くなるとそれだけいろんなアイデアが出て新しい作品が生まれるようです。今後こういった展覧会になっていくか私にも想像できませんが、思いもつかない作品ができる喜びや驚きは個々に感じられていることと思います。

研究会委員長 林 幸久



竹森 葉風 (書)・武石 勇二 (工芸美術)
田中 悦子 (写真)・北井 勲 (デザイン)



松葉 蘇山 (日本画)・澤田 靖子 (工芸美術)・塩崎 増郎 (工芸美術)・竹内 幸子 (洋画)